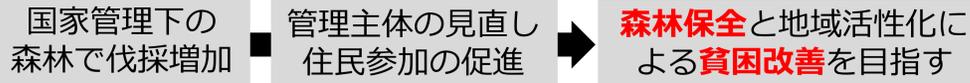


# インドネシアの生産林における住民農業グループの現状と課題 —ジャワ島西ジャワ州ボゴール行政区チサルア郡の事例—

○吉永 由美佳 西前 出  
京都大学大学院 地球環境学堂・学舎

## 研究背景と目的

東南アジアにおける住民参加型森林管理の重要性



様々な地域において住民参加型森林管理が実践されており、多様な課題を明らかにすることが重要

## インドネシアの生産林における事例



住民自らが**住民農業グループ**を組織し、副業として森林管理活動を実施

- しかし!
- ✓ 限定的な参加住民による利益の独占や癒着(横田, 2014)
  - ✓ 不参加住民の理解が得られず、持続的な管理が困難

目的 住民農業グループの参加者と不参加者の **社会経済的状況** **活動の認識** を比較することで住民参加のための課題を明確にする

## 対象地域と調査方法

西ジャワ州ボゴール行政区チサルア郡チブラオ集落  
主な生業：茶畑に関連する労働

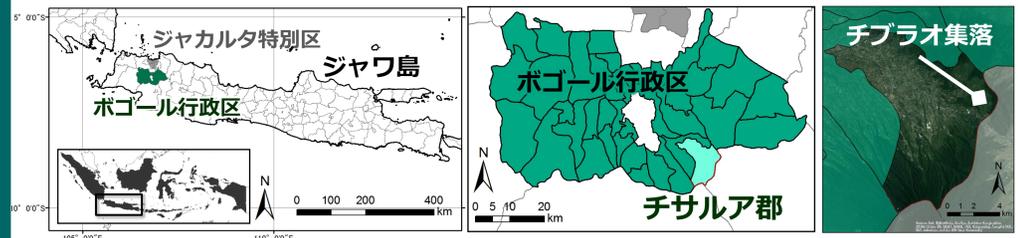


図1. 研究対象地

## 実施されている森林利用プログラム

自転車競技場運営



図2. 自転車競技場

コーヒー栽培



図3. コーヒー植林地



図4. 栽培されたコーヒー

**ボゴール農業大学とNGOが技術面・広報等サポート**

- ① アンケート調査：社会経済調査（職業、収入、教育レベル等）
  - ② 構造化インタビュー：住民農業グループ活動に関する認識と意見
- ◆ 対象：全73戸からランダムに抽出した40世帯191人  
◆ 実施期間：2015年10月～1月, 2016年9月

## 結果①：職業と収入について

表1. 社会経済状況の比較

	参加世帯 (9世帯)	不参加世帯 (31世帯)
世帯中の職業	茶畑労働者のみ	別荘管理人 飲食店勤務... etc. → <b>職業の多様性</b>
仕送り	なし	あり
主業の月収が1,000,000Rp (約8,350円)以下の世帯数	6世帯	10世帯
参加または不参加の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 収入を向上させたい</li> <li>◆ 参加者に誘われた</li> <li>◆ 研究機関やNGOが無償で技術支援をしてくれるため、安心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 初期投資金がない</li> <li>◆ 利益が得られるまで時間がかかる</li> </ul>

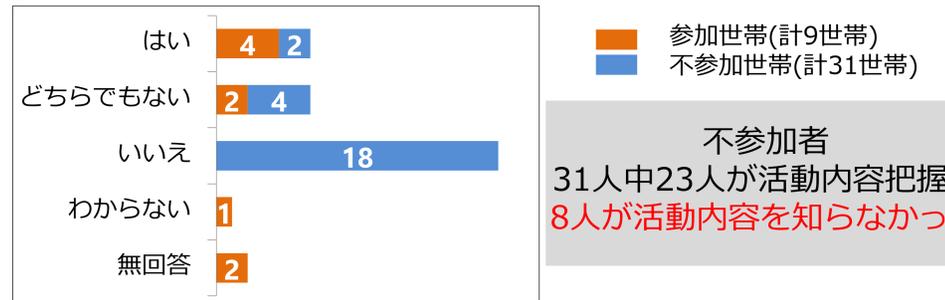


図5. 研究機関とNGOによる技術支援

- ◆ 参加世帯は収入が低いにも関わらず苗や種等の**初期投資**を決意していた
- ◆ 参加者はステークホルダーとの**信頼関係を築き、活動意欲を高めていた**

## 結果②：活動の認識調査について

Q. 活動に関する情報は活動開始時に提供されていたか？



Q. 活動に対してどのような印象を持っているか？(不参加世帯回答)

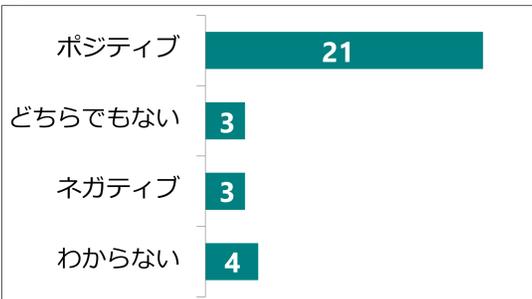


図6. 調査風景

- ◆ 活動に関する情報伝達は口伝えで行われており、**情報提供が不十分**だった
- ◆ 正確な情報を得ていないまま、活動に対して**ネガティブな印象**を持つ世帯もいた

## 課題

- ◆ 主業を茶畑労働のみに依存した**貧困世帯**が**初期投資**をして参加していた
- ◆ 不参加者は収入が高く収入源も多様であるが、初期投資に躊躇していた
- ◆ 不参加者はステークホルダーとの関連もなく、得られる情報も少ないため、活動に参加することで得られる**将来の利益と初期投資を比較できない**

より健全な住民参加型森林管理の実現に向けて

初期投資支援

無償の支援を提供するステークホルダーとの信頼関係の構築

イベント開催時等を利用した集落内における情報共有の徹底